

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

# 学術情報課程通信

## 学芸員・司書のこれから

教職・学術情報課程 主任 村 清司

学術情報課程は、学芸員を養成する学芸員コースと司書を養成する司書コースで構成されています。毎年、学芸員コースは3キャンパス合わせて200~300名、司書コースは2キャンパス(オホーツクキャンパスには司書コースがない)合わせて約100名の学生が履修します。

昨年、博物館法ならびに図書館法が改正されたため、学芸員、司書とも資格要件が変わり、今年度から新しいカリキュラムがスタートしました。学芸員コースは以前から博物館での実習が必修科目になっていますが、司書コースも新カリキュラムに図書館での実習が選択科目として盛り込まれました。学芸員コースを履修する学生は、博物館のほか、美術館、科学館、動物園、植物園などで実習を行います。現場での実習を経験すると学芸員の仕事に就きたいという気持ちにより強くなるようです。とくに、動物園、植物園、水族館などへの就職を希望する学生が少なくありません。しかし、学芸員、司書としての就職を希望する学生が多いのに対し、それらの求人はいわゆる

少ないのが現状です。

現在、国や自治体は、財政難により博物館や図書館などの箱物を縮小する傾向にあります。これまで多くの自治体が競って豪華な大型施設を建設してきましたが、その運営には膨大な費用がかかり、維持することが困難になって廃館に至るといったケースも出ています。しかし、退職して時間に余裕のある高齢者が増え、社会教育施設の充実を求める声は大きくなっています。そのような需要に応えるためには、見た目はよくなくても利用しやすい施設を提供することが必要であり、これからは建設費や維持費のかからない施設づくりが広がるのかもしれない。

今後学芸員や司書の需要が大きく増えることは考えにくい状況ですが、それでも毎年、学芸員・司書資格を取得した学生が博物館や図書館へ就職しており、現在、多くの本学卒業生が全国の社会教育施設で活躍しています。学芸員や司書の仕事に就くことを希望する学生のために、これからは本学卒業生の活躍ぶりをたくさん紹介していきたいと考えています。

農大

平成23年度  
資格取得  
状況

東京農業大学  
資格取得者数

学 部	学芸員	司書
農 学 部	121	25
応用生物科学部	16	6
地域環境科学部	40	21
国際食料情報学部	25	14
生物産業学部	25	—
合 計	227	66

東京農業大学  
短期大学部  
資格取得者数

学 科	司書
生物生産技術学科	1
環境緑地学科	2
醸造学科	4
栄養学科	4
合 計	11

# 学術情報課程の成り立ち

前東京農業大学「食と農」の博物館副館長 梅室英夫

東京農業大学における学術情報課程設立の目的は、自然科学系の学芸員を養成し、早急に博物館界に送り出すことでした。昭和55(1980)年当時、学芸員資格の取得可能な大学は史学部、美術部関係の学部が98パーセントを占め、自然史関係の学部は水産関係の一大学だけでした。博物館法によると動物園、植物園も博物館です。農学は自然史を含んだ総合的な博物学でもあり、自然科学の領域を修了した学芸員の養成が急務となったのです。

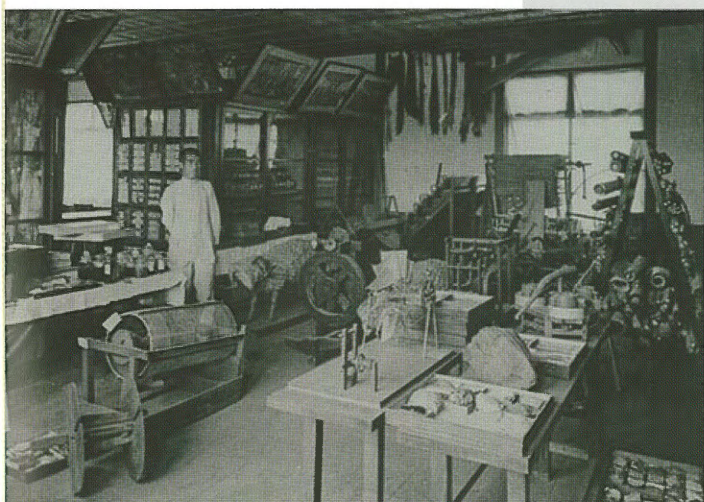
もとより、農大の前進であった東京高等農学校の初代校長田中芳男は日本の博物館の祖といわれ、東京教育博物館(国立科学博物館)の館長であり、慶応3年(1867)のパリ万国博覧会の随員でもありました。図書館と標本室が一体となった施設が、実学を探究する大学には不可欠であるとした田中芳男の思想は創立以来受け継がれています。

本学には青山時代からの標本室があり、動物の剥製、液浸標本、押し葉標本、農機具などが収集され、その写真が残されています。戦災により青山から世田谷へキャンパスが移転し、図書館の部門として標本室が設置されたのです。昭和43(1968)年から積極的に全国の校友から、古農具(約4000点)の寄贈を願い、この資料を基に

昭和56(1981)年12月26日に文部省から博物館法第29条の規定に基づく博物館相当施設として東京農業大学農業資料室が認可されました。昭和57(1982)年10月に学芸員

課程の設置申請を行い、昭和58(1983)年4月開講となりました。この資料室が博物館実習の施設として併設されていたことがメリットとなり、本課程の認可につながりました。

昭和59(1984)年3月には聴講生9名を送り出し、現在すべての方々はその道で活躍されています。これまでにおよそ2000名を超える資格取得者を輩出しました。このうちおよそ10パーセントの方が博物館界で現在活躍されています。いまの「学術情報課程」の名称は昭和59年に司書資格が併設されたために、「学芸員課程」から発展的に改名されたものです。



明治37年頃、東京農業大学標本室と図書館閲覧室(下)

学術情報課程の司書コースは、昭和59(1984)年に設立されました。その目的は、図書館界では少ない自然科学系の司書養成と、情報活用能力を高めて社会で活躍できる人材を育成することにあります。今日のような情報化社会が到来し、社会構造が劇的に変化することなど誰も予想しなかった時代に、情報活用能力の重要性に注目するなど先見の明があったといえます。教授陣もこれに賛同した慶応大学の澤本孝久先生、津田良成先生、図書館情報大学(現筑波大学)の藤野幸雄先生、佐々木敏雄先生、情報科学技術協会会長の中村幸雄先生など図書館情報学分野の錚々たるメンバーが教育指導に当たっていただきました。私もこれらの先生方の指導を受けた一人ですが、当時、農芸化学専攻の大学院生であった私にとって、どの授業も極めて新鮮で聞き逃すことのできないものでした。また、そこで得られた知識や技術は、大学院での研究活動に大いに役立ったことは言うまでもありません。

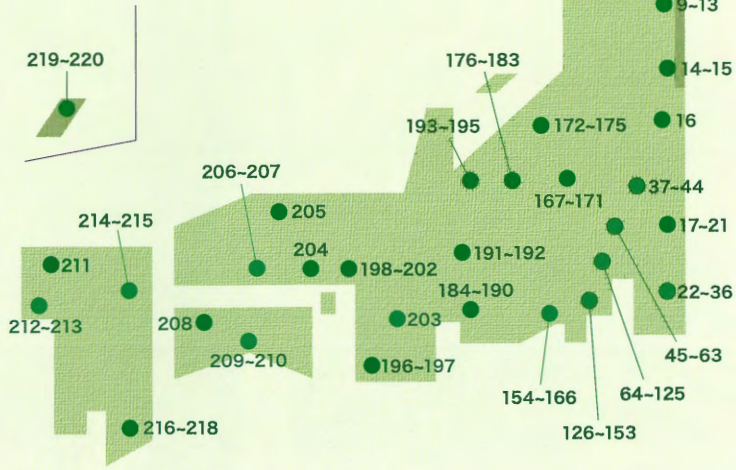
## 自然科学系の司書養成

学術情報課程 惟村直公

本課程の司書コースができて29年の歳月が流れましたが、その間、約1800名が司書資格を取得し卒業していきました。卒業生は、図書館、博物館、情報センターだけではなく、公務員、企業の特許部門、一般企業など様々なところへ就職しております。就職先はさまざまですが、どの職場でも激変する情報化社会において情報活用能力は共通して必要なものです。自然科学系大学で司書資格が得られるだけでなく、情報活用能力を高めることができる課程は極めてまれな存在で、学生の皆さんは大いにその能力を高めてもらいたいと思います。



# 卒業生の働く関連組織



退職・辞職者及び嘱託・臨時雇用者を含む。2012年現在確認できた方々のみ。

- |   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <p><b>北海道</b> 1 東京農業大学学術情報センター(オホーツク)<br/>2 北網圏北見文化センター<br/>3 釧路市立博物館<br/>4 公園管理財団滝野川公園ビジターセンター<br/>5 美幌博物館<br/>6 標津サーモン科学館</p> <p><b>青森</b> 7 青森市森林博物館</p> <p><b>秋田</b> 8 秋田市大森山動物園</p> <p><b>岩手</b> 9 宮沢賢治記念館<br/>10 盛岡市動物公園<br/>11 奥州市牛の博物館<br/>12 岩手大学ミュージアム<br/>13 奥州市教育委員会(歴史遺産課)</p> <p><b>宮城</b> 14 泉ポタニカルガーデン<br/>15 NECTーキン株式会社</p> <p><b>福島</b> 16 藤田美術館</p> <p><b>茨城</b> 17 ミュージアムパーク茨城県自然博物館<br/>18 国立科学博物館筑波実験植物園<br/>19 つくば市ゆかりの森昆虫館<br/>20 確実園<br/>21 ひたち海浜公園</p> <p><b>千葉</b> 22 千葉大学附属図書館<br/>23 千葉市動物公園<br/>24 千葉県南房バラダイス<br/>25 山階鳥類研究所<br/>26 印旛郡市文化財センター<br/>27 市川市動植物園<br/>28 市立市川自然博物館<br/>29 千葉市都市緑化植物園<br/>30 千葉県立現代産業科学館<br/>31 千葉市花の美術館<br/>32 市原ぞうの国<br/>33 鴨川シーワールド<br/>34 京成ばら園<br/>35 千葉県立中央博物館<br/>36 マザー牧場</p> <p><b>栃木</b> 37 びわくグラッセ科学ランド(栃木県子ども総合科学館)<br/>38 りんどう湖ファミリー牧場<br/>39 井頭公園・都市緑化植物園<br/>40 那須塩原市那須野が原博物館<br/>41 日光湯元ビジターセンター</p> | <p>42 あしががフラワーパーク<br/>43 栃木県立日光自然博物館<br/>44 栃木県埋蔵文化財センター</p> <p><b>埼玉</b> 45 浦安市立図書館<br/>46 埼玉学園大学(司書課程)<br/>47 大崎公園・子供動物園<br/>48 大崎公園・園芸植物園<br/>49 埼玉県立川の博物館<br/>50 埼玉県生態系保護協会<br/>51 埼玉県平和資料館<br/>52 入間市立博物館ALTI<br/>53 川口市グリーンセンター<br/>54 埼玉県立自然の博物館<br/>55 埼玉県子ども動物自然公園<br/>56 埼玉県自然学習センター<br/>57 狭山市智光山公園 子ども動物園<br/>58 国営武蔵丘陵森林公園・都市緑化植物園<br/>59 鉄道博物館<br/>60 さいたま緑の森博物館<br/>61 所沢市生涯学習推進センター常設展示室<br/>62 さいたま市大宮盆栽美術館<br/>63 有限会社 ワールド工芸(鉄道模型)</p> <p><b>東京</b> 64 株式会社 どうぶつむら<br/>65 国立国会図書館<br/>66 練馬区図書館<br/>67 都立日比谷図書館(閉館)<br/>68 調布市立図書館<br/>69 赤羽図書館<br/>70 株式会社 図書館流通センター<br/>71 渋谷区立図書館<br/>72 府中市立図書館<br/>73 日本近代文学館<br/>74 科学技術振興機構(JST)<br/>75 拓殖大学図書館<br/>76 首都大学東京図書館<br/>77 青山学院大学図書館<br/>78 学習院大学法経図書館センター<br/>79 東京農業大学図書館<br/>80 東海大学(司書課程)<br/>81 日本出版販売株式会社<br/>82 株式会社 トーハン</p> | <p>83 大日本印刷<br/>84 株式会社 角川書店 資料室<br/>85 東海大学<br/>86 板橋区立教育科学館<br/>87 京王フローラルガーデン(京王百花苑)<br/>88 三鷹遺跡調査会<br/>89 板橋区子ども動物園<br/>90 朝日ギャラリー<br/>91 東大和市立郷土博物館<br/>92 東京都薬用植物園<br/>93 新島村博物館<br/>94 厚生労働省産業安全技術館<br/>95 葛飾区郷土と天文の博物館<br/>96 パルテノン多摩 多摩市立複合文化施設<br/>97 多摩市立グリーンライブセンター<br/>98 賀川豊彦記念 松沢資料館<br/>99 サンシャイン水族館<br/>100 東京都葛西水族園<br/>101 東京都夢の島熱帯植物館<br/>102 東京都神代植物公園<br/>103 科学技術館<br/>104 虎屋ギャラリー(虎屋文庫)<br/>105 新宿御苑<br/>106 練馬区郷土資料室<br/>107 羽村市動物公園<br/>108 日本自然保護協会<br/>109 東京都恩賜上野動物園<br/>110 東京都多摩動物公園<br/>111 高木盆栽美術館(閉館)<br/>112 羽村市郷土博物館<br/>113 長池公園自然館<br/>114 足立区生物園<br/>115 東京都多摩湖公園ふのふと村ビジターセンター<br/>116 進化生物学研究所(パイオリウム)<br/>117 江戸川区自然動物園<br/>118 株式会社 野生動物保護管理事務所<br/>119 株式会社 パレオサイエンス<br/>120 東京農業大学(学術情報課程)<br/>121 東京情報大学(学芸員課程)<br/>122 PASONA O2(株式会社 パソナ)<br/>123 株式会社 丹青社(展示)<br/>124 株式会社 日展(展示)<br/>125 イカリ消毒株式会社(環境)</p> <p><b>神奈川</b> 126 聖マリアンナ医科大学医学情報センター<br/>127 神奈川県産業技術センター(神奈川県工業試験場)<br/>128 神奈川県自然環境保全センター<br/>129 よみうりランド植物園(閉館)<br/>130 馬の博物館<br/>131 株式会社 どうぶつむら 相模湖飼育所<br/>132 横浜市立野毛山動物園<br/>133 よみうりランド水族館<br/>134 川崎市フルーツパーク<br/>135 川崎市夢見ヶ崎動物公園<br/>136 川崎市緑化センター<br/>137 横浜国立大学金沢動物園<br/>138 よこはま動物園ズーラシア<br/>139 神奈川県立フラワーセンター大船植物園<br/>140 神奈川県立生命の星地球博物館<br/>141 観音崎自然博物館<br/>142 京急油壺マリンパーク<br/>143 新江ノ島水族館<br/>144 箱根町立大涌谷自然科学館(閉館)<br/>145 横浜市子ども植物園<br/>146 箱根町立箱根湿生花園<br/>147 箱根関所・箱根関所資料館<br/>148 横浜市緑の協会<br/>149 津久井湖城山公園<br/>150 東大和市立郷土博物館<br/>151 昭和音楽大学(学芸員課程)</p> | <p>152 NPO法人市村自然塾 関東<br/>153 関東港業株式会社</p> <p><b>静岡</b> 154 富士宮市立図書館<br/>155 アンデイルランド カメの博物館<br/>156 熱川バナナワニ園<br/>157 伊豆シャボテン公園<br/>158 堂が島洋らんセンター<br/>159 富士サファリパーク<br/>160 小泉アフリカ・ライオン・サファリ株式会社<br/>161 下田市教育委員会文化財保護課<br/>162 石廊崎自然公園ジャングルパーク(閉館)<br/>163 浜松公園緑地協会<br/>164 浜松市動物園<br/>165 掛川花鳥園<br/>166 移動動物園カントリーファーム</p> <p><b>群馬</b> 167 日本蛇族学術研究所(ジャハスネークセンター)<br/>168 高崎市青少年科学館<br/>169 尾瀬保護財団・ビジターセンター<br/>170 群馬サファリ・パーク<br/>171 赤堀歴史民俗資料館</p> <p><b>新潟</b> 172 新潟県都市緑化センター<br/>173 両津郷土博物館<br/>174 長岡市寺泊水族博物館<br/>175 新潟大学文学部(学芸員課程)</p> <p><b>長野</b> 176 上田女子短期大学(司書課程)<br/>177 軽井沢町植物園<br/>178 市立大町山岳博物館<br/>179 長野市茶臼山動物園<br/>180 ハヶ岳美術館<br/>181 原村歴史民俗資料館<br/>182 須坂市動物園<br/>183 大澤酒造民俗資料館</p> <p><b>愛知</b> 184 岡崎市美術館<br/>185 豊橋自然史博物館<br/>186 豊橋市美術博物館<br/>187 豊橋総合動植物園<br/>188 名古屋市東山動植物園<br/>189 野外民族博物館リトルワールド<br/>190 日本モネセンター 附属博物館・世界サル類動物園</p> <p><b>岐阜</b> 191 岐阜県立博物館<br/>192 世界淡水魚水族館・アクアトぎふ</p> <p><b>富山</b> 193 魚津市水族館<br/>194 富山県[立山博物館]<br/>195 氷見市海浜植物園</p> <p><b>和歌山</b> 196 串本海中公園センター<br/>197 株式会社 アワズ(白浜アドベンチャーワールド)</p> <p><b>兵庫</b> 198 UCCコーヒー博物館<br/>199 神戸市フラワーパーク<br/>200 宝塚植物園(宝塚ガーデンフィールズ)<br/>201 神戸花鳥園<br/>202 伊丹市昆虫館</p> <p><b>奈良</b> 203 橿原市昆虫館</p> <p><b>岡山</b> 204 倉敷市立自然史博物館</p> <p><b>島根</b> 205 島根県立三瓶自然館サヒメル</p> <p><b>広島</b> 206 広島市植物公園<br/>207 広島市交通科学館</p> <p><b>愛媛</b> 208 愛媛県総合科学博物館</p> <p><b>高知</b> 209 高知県立牧野植物園<br/>210 九州龍谷短期大学(司書課程)</p> <p><b>佐賀</b> 211 佐賀県立博物館</p> <p><b>長崎</b> 212 佐世保市亜熱帯動植物園<br/>213 長崎バイオパーク</p> <p><b>大分</b> 214 大分マリンパレス水族館「うみたまご」<br/>215 佐野植物園</p> <p><b>鹿児島</b> 216 鹿児島市平川動物公園<br/>217 国立医薬品食品衛生研究所 種子島薬用植物栽培試験場<br/>218 屋久島有用植物リサーチパーク</p> <p><b>沖縄</b> 219 沖縄こどもの国<br/>220 名護自然動植物公園</p> |
|---|---|--|---|

(順不同)

# 教員紹介

## 司書コース

〔世田谷・厚木〕 中野捷三 (東京農業大学)

惟村直公 (東京農業大学)

葛城慶子 (東京農業大学・非常勤講師)

高山直也 (東京農業大学・非常勤講師)

小川史 (東京農業大学・非常勤講師 学芸員コース兼)

長塚隆 (鶴見大学)

宮地孝宜 (日本女大学・学芸員コース兼)

伊香左和子 (静岡文化芸術大学)

## 学芸員コース

〔世田谷・厚木〕 黒澤弥悦 (東京農業大学)

木村李花子 (東京農業大学)

梅室英夫 (東京情報大学/東京農業大学・非常勤講師)

大貫英明 (東京農業大学・非常勤講師)

田邊優子 (鉄道博物館)

青木豊 (国学院大学)

淡輪俊 (財団法人進化生物学研究所)

井上洋一 (東京国立博物館)

馬場祐次朗 (徳島大学)

吉岡亮衛 (国立教育政策研究所)

下湯直樹 (日比谷図書館)

〔オホーツク〕 宇仁義和 (東京農業大学)

入宇田尚樹 (東京農業大学)

## 展示のお知らせ

### 企画展「古農具展—その技と美」

- 場所 東京農業大学「食と農」の博物館
- 期間 2012年10月12日(土)～2013年3月24日(日)
- 会期中の休館 月曜日および12月21日(土)～1月7日(日)

企画展  
古農具展—その技と美

「古農具展」は、東京農業大学「食と農」の博物館で開催される。展示は、農具の歴史や文化、そして農具の美しさを紹介する。展示品は、古くから使われてきた農具で、その形状や機能、そして農具の美しさを紹介する。展示品は、古くから使われてきた農具で、その形状や機能、そして農具の美しさを紹介する。

10月12日(金)～3月24日(日)

東京農業大学「食と農」の博物館 1階企画展示室B

オープニングセレモニー

10月12日(金) 13時～15時

主催 東京農業大学「食と農」の博物館

協賛 東京農業大学

お問い合わせ 03-5477-2512

東京都世田谷区桜ヶ丘1-1-1

東京農業大学「食と農」の博物館

## 編集後記

図書館と標本室が一体となった施設が、実学を探究する大学には不可欠であるとした田中芳男の思想が、現在の学術情報課程のありかたの礎になっています。「学術情報課程通信」は年1回の発行ですが、現場で活躍する卒業生の紹介、博物館実習や就職の報告などを掲載していく予定です。この分野は、一般企業等に比べると仕事や採用に関する情報量や需要が限られています。そこで本課程は授業だけでなく、これらの社会教育機関に興味を持つ学生と現場を繋ぐ、ネットワークのハブ的役割も担っていきたいと考えています。(木)

## 講演会

1月12日(土) 13時半～15時 於/本博物館2階セミナー室  
大滝則忠氏(国立国会図書館長・前東京農業大学学術情報課程教授)

梅室英夫先生が30年をかけて収集した貴重な農大の古農具コレクション4000点(日本の産業遺産300選)の内、約30点を展示。農具の使用技術だけでなく、造形や有用美の視点からも捉えます。学芸員コース履修学生(学部4年生)も古農具の素描画や書作品の制作・展示を行い、実施に参画しています。黒澤弥悦先生によるギャラリー・トークは1/12・13、2/2・3、3/23・24の、午後1時半から2時に行います。

学術情報課程通信 創刊号(第1号)

GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学 教職・学術情報課程 発行

〒156-8502 東京都世田谷区桜ヶ丘1-1-1

電話 03-5477-2512

レイアウト・印刷/共立印刷株式会社

平成25年(2013)年1月7日 発行

www.nodai.ac.jp